

2021.11
福田美術館

報道関係者各位

企画展開催のお知らせ



トラ時々ネコ 干支セトラ

2022年は寅年ということで、与謝蕪村、円山応挙など江戸時代中期に活躍した画家や、竹内栖鳳や大橋翠石ら明治から昭和にかけて活躍した有名画家が描く虎の絵を主役として、他の干支の動物を描いた作品なども福田コレクションの中から厳選して展示いたします。また2022はニャーニャーとも読めることから、愛らしい猫を描いた絵画も「時々」並べて展示いたします。

日時 2022年1月29日(土)～2022年4月10日(日)
 ○前期/2022.1.29～3.7 ○後期/2022.3.9～4.10

10:00～17:00 (最終入館16:30)

主催 福田美術館・京都新聞

作品数 ○前期：26点 → うち初公開/2点
 ○後期：24点
 ○通期：25点 → うち初公開/8点
 ○作品総数：75点

※作品点数は変わる可能性があります



長沢芦雪「猫と仔犬」

トラ、ネコ、ネコトラ

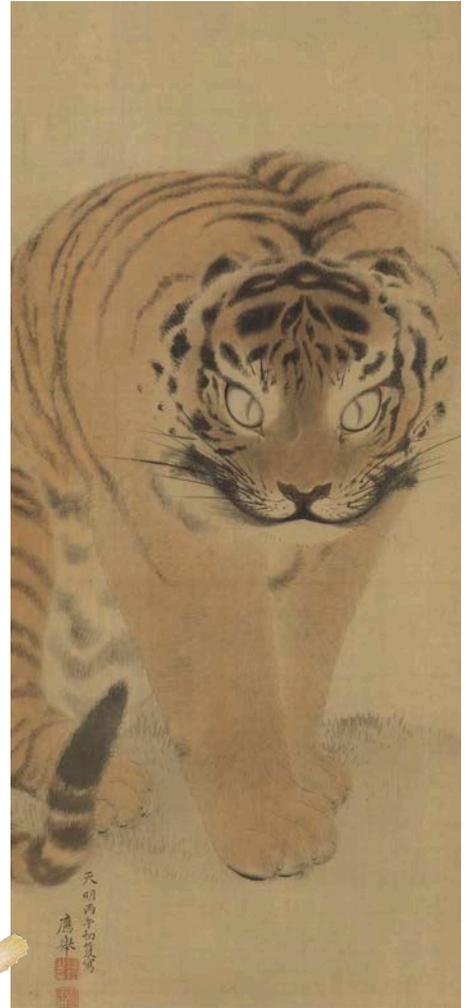
トラはインド、中国からロシア、中央アジア一帯に生息するネコ科の動物。中国や朝鮮半島では、武勇や王者の象徴とされていました。トラの生息していない日本でも、龍とともに霊獣とされ、絵画や工芸品などの意匠として用いられてきました。江戸時代の画家たちがトラを描くときに参考にしたのは、中国などから輸入された毛皮や絵画でした。そのため、頭のすぐ後ろで肩が盛り上がっていたり、前脚の関節がなかったりと不自然な姿をしています。よく分からない部分は実際に観察できるネコを参考にしていたため、ネコのようなトラ“ネコトラ”がたくさん描かれました。



竹内栖鳳「猛虎」



青木猷山「猫に牡丹図」



円山応挙「虎図」

明治時代に入ってトラが動物園で飼育され始めると、竹内栖鳳、大橋翠石をはじめ多くの画家が写生に通い、写実的なトラを描くようになりました。ここでは江戸時代に描かれたネコのような虎図、明治時代以降の画家が実物を見て描いた虎図とともに、江戸時代から昭和に描かれた猫図もご紹介します。



大橋翠石「仔虎図」

干支（えと）セトラ

ネズミから始まりイノシシで終わる干支は、月日や時間、方角を表すために定められ、その起源は古代中国にさかのぼるとされています。干支の12種類のいきものが選ばれた理由については様々な説がありますが、日本では自分の干支を知らない人はいないと言えるほど浸透しており、多くの芸術家たちの題材となり、絵画や工芸作品として表現されてきました。第2展示室とパノラマギャラリー（第3展示室）では、子【ね】・丑【うし】から始まる干支のいきものを描いた絵画を通して、生態や、人とのかかわりなどをご紹介します。併せて「干支に選ばれなかった」猫の絵もお楽しみください。



大橋翠石「瑞祥（鳳凰・鼠に宝槌）」 菊池契月「松明牛」

川合玉堂「紅梅猫児」

速水御舟「白兔図」

休 館
料 金

毎週火曜日

<福田美術館>

一般・大学生 ¥1,300(1,200)/高校生 ¥700(600)/小中学/¥400(300)

障がい者と介添人1名まで 各¥700(600)

※（ ）は団体料金

<嵯峨嵐山文華館との二館共通券>

一般・大学生 ¥2,000/高校生 ¥1,000/小中学生 ¥550

障がい者と介添人1名まで 各¥1,000

担当学芸員：岡田秀之

広報：中島真帆

トラ時々ネコ 干支セトラ プレス用画像一覧_1



01



02



03



04



05



06

01

円山応挙「虎図」

福田美術館蔵（前期）

02

曾我蕭白「虎図」

福田美術館蔵（前期）

03

長沢芦洲「虎図」

福田美術館蔵（前期）

04

竹内栖鳳「猛虎」

福田美術館蔵（後期）

05

与謝蕪村「猛虎飛瀑図」

福田美術館蔵（後期）

06

長沢芦雪「猫と仔犬」

福田美術館蔵（通期）

07

柴田義董「梅花牡丹双鳥

図・竹菊猫図」右幅

福田美術館蔵（通期）

08

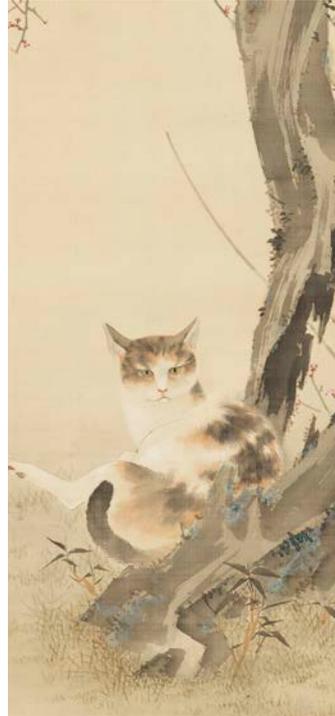
川合玉堂「紅梅猫児」

福田美術館蔵（前期）

トラ時々ネコ 干支セトラ プレス用画像一覧_2



07



08



09

09
大橋翠石「瑞祥（鳳凰・鼠に宝槌）」のうち右幅
福田美術館蔵（通期）

10
円山応挙「竹に狗子図」
左幅
福田美術館蔵（後期）

11
大橋翠石「猛虎之図」
福田美術館蔵（通期）

12
大橋翠石「仔虎図」
福田美術館蔵（後期）

13
大橋翠石「仔猫図」
福田美術館蔵（前期）



10



11



12



13

トラ時々ネコ 干支セトラ プレス用画像一覧_3



14



16



17



15



18

14

菊池契月「松明牛」
福田美術館蔵（前期）

15

速水御舟「白兔図」
福田美術館蔵（前期）

16

大橋翠石「双犬図」
福田美術館蔵（通期）

17

青木猷山「牡丹に猫図」
福田美術館蔵（通期）

18

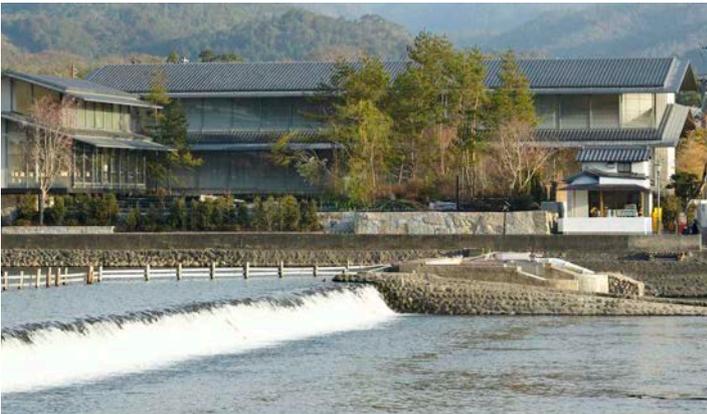
大橋翠石「雪中野猪図」
福田美術館蔵（前期）

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しむことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。



福田美術館概要

- 名称：福田美術館／Fukuda Art Museum
- 運営主体：一般財団法人福田美術振興財団
- 住所：〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16
- 電話番号：075-863-0606 (FAX) 075-863-0607
- メールアドレス：info@fukuda-art-museum.jp
- ホームページ：<https://fukuda-art-museum.jp>



- 敷地面積：1982㎡
- 延床面積：1193.58㎡
- ・展示室1／151.2㎡
- ・展示室2／175.4㎡
- ・展示室3／64.5㎡
- 交通アクセス：
 - ・JR山陰本線「嵯峨嵐山」駅下車、徒歩12分
 - ・阪急嵐山線「嵐山」駅下車、徒歩11分
 - ・嵐電（京福電鉄）「嵐山」駅下車、徒歩4分



本展に関するお問い合わせ

福田美術館・嵯峨嵐山文華館 広報事務局（ウインダム内）

TEL 03-6661-9448 FAX 03-3664-3833

Email 福田美術館：fukudamuseum@windam.co.jp

嵯峨嵐山文華館：samac@windam.co.jp

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F

「福田美術館」広報事務局

担当：沼澤、多田